

問：私達学生にとって関心事であるゼミナールについて、どうお考えになりますか。

先生：非常に結構なことで、これからも続けていきたいとします。

問：どのような点からですか。

先生：三年生が一つの地域（主に国家）について自分なりに調べ、その中で、問題意識をつかむのは、大変意義あることです。

問：今年度のテーマは複合国家についてでしたが、どのような感想をお持ちですか？

先生：複合国家という内容には到らなかったように思いますが、それぞれの分担を非常に良く調べたということは、十分意義あることと思います。地誌の学習は地理の核心にふれる事になるので、これは、4年生で渡辺先生から方法論の講義を受ける準備として、まず、地誌を勉強しその中から問題点を把握するきっかけをつかむことが大切です。又、ゼミナールは学習過程であるし、気心の知れた教室内のことなので、失敗など恐れずに自分の考え、疑問等をどしどし出して討論を進めて行くことを期待します。4年生の積極的な発言もあわせて望みます。

問：最近どんな事をお考えになりますか？

先生：昨年、還暦を卒業生はじめ、皆さんに祝っていただいて大変うれしく思いましたが、それと同時にお茶の水にいられる日が残り少なくなった事を感じずにはいられませんでした。その為か、一日一日毎回の授業が大事に思われ、惜まれるこの頃です。お茶の水に来て良かったと思うのは、私は学生時代には好きな事・興味を持つものしかやらなかったので知識がたよっていました。ところがお茶大では講義の必要からいろいろと勉強をしましたので、以前に較べれば広い知識をもてるようになった事は自分に大変プラスであったと思っています。

新制大学創立以来、地理科の為に御尽力下さっている先生のしみじみとした感慨深げなお言葉でした。最後に先日十年前の卒業生に招待され楽しい一時を過し、卒業生の皆さんが立派になられたのびっくりなさったとのこと。卒業生から懐かしいお便りを頂くのに返事が出せずに居られる事を恐縮なさり、本号を借りてお詫びしたいとの事でした。

(6月27日 石川記)

丸 一 年

浅 井 辰 郎

1 昨年講師で来たときこの欄に突飛なことを書きました。「気象衛星の写真を受信して集中豪雨

の現場に急行したい」と。それは山崩れや谷形など気候・気象現象の結果からその気候・気象そのものを数量的に求めたいという兼ねてからの念願の1部分なのです。この気象衛星の受信そのものは、その後一向に発展していませんが、地形から過去の気候を推定することについては昨年暮に“*The asymmetrical “Siglu gully” in Iceland*”を印刷・発表しました。その結果は気候・地形両方面の方々からよい忠言を沢山受けることが出来、喜んで居ります。

このような研究は「逆も真」でなければ上の目的に合致しないわけですから、昨夏はこれを実験しようと思いましたが、しかし新任したばかりで器械もないので、学内にもし冷凍庫の空いたものもないかと思って事務を調べましたが見つかりません。思いあぐねて学内を散歩していたら、何と地理学教室の外の渡り廊下に、牛乳屋の大きなアイスクリームストッカーがあるではありませんか。夢かとばかりに雀踊りして借用しほほ1ヶ月の準備をして8月中旬から毎夕遅くまで実験を重ねました。

それはアイスランドのように春や秋に0°C前後の日が多い状態を冷凍庫中に再現して谷の模型を凍らせ、南向斜面だけを赤外線ランプでうすく融かし、ここに融雪水に相当する0°C程度の水を流して侵蝕させるものです。この実験を9月の学期が始まるまでに5回やりました。その最初の実験から谷は次第に日の当たっている北側に徐々に移動して行き、予想した非対称谷が見事に出来て来ました。しかし、それが偶然ではなくて必然だという証明実験は、風の吹く渡り廊下では不可能でした。幸いその後にもっと理想的な冷凍庫を買って戴き、今は私の部室でその実験準備に大奮です。来年を御期待下さい。

なお昨年は紀要に「アイスランド全国地誌(1)地質と内力地形」を発表出来ました。今年も続いて「外力地形や気候」などを載せたいと思っています。これらがもし、世界で有数な高いアイスランド文化の解明に役立つなら私は満足至極です。

昨年のこの欄にはお茶大生の社会的責任というような口幅ったいことを書きました。1年経って見ても、この小ささを主張は少しも変える必要はないと感じています。しかしこれを主張しなくてもよいような状態にするには、小学校あるいはもっと家庭と幼稚園教育にまで遡らなければ根本的には無理ではないか、もしその頃から個人の社会的責任が日常茶飯事になっていけば、大学はそれへの画龍点睛で済むのでないか、と少しく圧倒された感じにいるというのが近状です。しかし幸いヨーロッパ地誌を担当していますから、中世以来多くの歴史的事象に見える北欧人の社会性を話すことにより、一步一步前進したいと思っています。